資料1

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和6年度
意見交換会（第3回）

宮城県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局
2025年1月24日

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（1）全体概要：「STAND OUT 宮城」

「STAND OUT 宮城」	
企画趣旨	既存観光コンテンツのインバウンドに対する魅力を外国人とともに検証、評価し、その内容をまとめることで、コンテンツのアップデートを促進させる。
開催日程	• 2024年12月21日（土）
参加者	• 大学生7名（ガイド役:東北大学まちづくり研究会4名/宮城学院女子大学観光系ゼミ所属3名） • 県内在住外国人15名（モニター）
活動拠点	• TKP仙台西口ビジネスセンター（事前ミーティング・最終ミーティング）
実施内容	• 事務局が設定した候補地の他、ガイド役学生が選定した観光コンテンツの魅力を検証。 • 多言語化対応が行われているかなどの評価軸に、インバウンドが行きたくなる観光コンテンツかを検証 • 視察した観光コンテンツが、アジア圏・欧米豪圏のどちらをターゲットにアピールできるかを検証
評価訪問地	■仙台・松島エリア ：せんだい3・11メモリアル交流館－震災遺構・荒浜小学校－松島おさかな市場－瑞巌寺－松島蒲鉾本舗－仙台うみの杜水族館－2024SENDAI光のページェント ■石巻・女川エリア ：石ノ森萬画館－石巻市震災遺構・門脇小学校－いしのまき元気いちば－シーパルピア女川/旧女川交番－大川小学校/大川震災伝承館 ■気仙沼・南三陸エリア ：気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館－気仙沼お魚市場－岩井崎塩づくり体験館－道の駅大谷海岸－教育資料館【みやぎの明治村内】
事前ミーティング等実施	• 2024年11月 9日（土）13時～ 事前ミーティング @TKP仙台西口ビジネスセンター • 2024年11月14日（土）13時～ 事前ミーティング（9日欠席者対応）@Teams会議 • 2024年12月13日（金）19時～ モニター外国人向け説明会① @Teams会議 • 2024年12月14日（土）13時～ モニター外国人向け説明会② @Teams会議 • 2024年12月17日（火）17時～ 直前ミーティング @Teams会議

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（２）参加者募集方法

＜ガイド役学生＞

副代表団体の協力によって、県内で観光分野の学科・カリキュラムを有する教育機関、旅行や街づくりを研究する大学サークルに対してアプローチ。最終的には東北大学・宮城学院女子大学の協力を受け参加者を募集。

＜ツアーモニター＞

県内在住の留学生や就業者を対象とし、公益財団法人宮城県国際化協会（MIA）、公益財団法人仙台観光国際協会 （SenTIA）、国立大学法人東北大学　教育・学生支援部留学生課の協力により、募集を実施。

■ツアーモニターの募集告知は、**東北大学　教育・学生支援部留学生課・宮城県国際化協会・仙台観光国際協会の協力**により、メールやSNS等で告知展開。

＜ガイド役参加者＞

東北大学　都市・まちづくり研究会　　：4名
（2回生１名・3回生3名）
宮城学院女子大学　現代ビジネス学科：3名
（2回生2名・3回生1名）

＜ツアーモニター参加外国人＞

東北大学　　：10名
宮城学院女子大学　：1名
未来の杜学園　　：1名
県内就業者　　：3名

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（３）事前ミーティング等の実施状況-1

＜事前ミーティング＞

開催日時：2024年11月9日（土）13：00～16：00
※欠席者対応として、同内容を11月16日（土）13：00～にもオンライン開催

開催場所：TKP仙台西口ビジネスセンター　カンファレンスルーム５B
（〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町1-5-31シエロ仙台ビル 5階）

開催概要：宮城県の観光及び復興について講演
（仙台港周辺地域賑わい創出コンソーシアム／株式会社JTBコミュニケーションデザイン エリアマネジメント部 武宮透様）
検証する観光コンテンツの選定と決定
アジア圏向け（短期滞在）/欧米豪圏向け（長期滞在）をターゲット層として、検証するコンテンツを設定
評価ポイントの検討と設定

参加者　：ガイド役大学生　計6名（東北大学 4名/宮城学院女子大学 2名）

【実施風景】

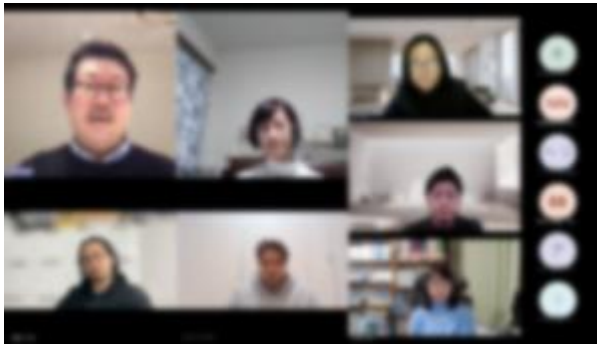
● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（３）事前ミーティング等の実施状況- 2

＜モニター外国人向け事前ミーティング＞ オンライン

開催日時：2024年12月13日（金）19:00～
※欠席者対応として、同内容を12月14日（土）13：00～開催
開催概要：取組説明・訪問地説明・評価ポイントの説明・当日集合時間の案内

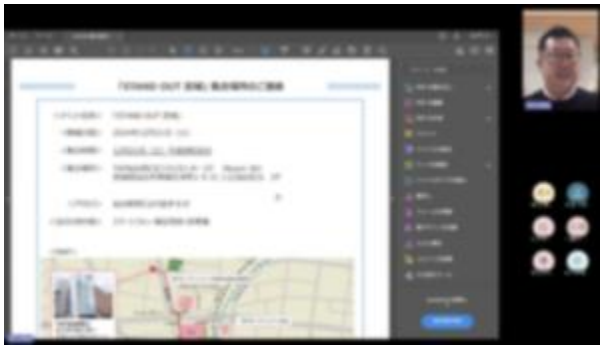
＜実施写真＞ オンライン会議スクリーンショット



＜ガイド役大学生直前ミーティング＞ オンライン

開催日時：2024年12月17日（火）17:00～
開催概要：取組説明・訪問地説明・評価ポイントの説明・当日集合時間の案内

＜実施写真＞ オンライン会議スクリーンショット



● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（４）当日行程／検証コンテンツ

＜集合＞
2024年12月21日（土）
8時30分

＜集合場所＞
TKP仙台西口ビジネスセンター３Ｆ
（Room 3A）
宮城県仙台市青葉区本町1-5-31
シエロ仙台ビル　３Ｆ

＜実施内容＞
・エリア別にチーム分け
・実施変更点等の共有

＜宮城県モニターツアー　行程＞

■仙台・松島エリア
（9：00発）
・震災遺構・荒浜小学校（9：20～10：10）
・せんだい3.11メモリアル交流館（10：30～11：30）
・松島おさかな市場（12：10～13：10 昼食含む）
・瑞巌寺（13：20～14：20）
・松島蒲鉾本舗／笹かまぼこ手焼き体験（14：30～15：10）
・仙台うみの杜水族館（15：40～17：00）
・仙台駅周辺（17:20）
・2024SENDAI光のページェント見学（～18:20）

■石巻・女川エリア
（9：00発）
・石ノ森萬画館（10：20～11：20）
・石巻市震災遺構・門脇小学校（11：30～12：30）
・いしのまき元気いちば（12：40～13：40 昼食含む）
・シーパルピア女川/旧女川交番（14：10～15：10）
・大川小学校/大川震災伝承館（15：40～16：40）
・仙台拠点（18：10）

■気仙沼・南三陸エリア
（9：00発）
・気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館（11：00～12：00）
・気仙沼お魚市場（12：15～13：15 昼食含む）
・岩井崎塩づくり体験館（塩づくり体験13：30～14：10）
・道の駅大谷海岸（14：20～14：50）
・教育資料館【みやぎの明治村内】（15：30～16：30）
・仙台拠点（18：30）

＜最終ミーティング＞
（18時45分から開催）
※全コース戻り次第

参加者から下記について発表

・視察の感想

・訪問した場所で一番良かった場所

・多言語化への対応や、アイデアについて

・その他

終了～解散

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

仙台・松島エリア

■ 震災遺構・荒浜小学校・せんだい3.11メモリアル交流館・松島おさかな市場

今年度の企画（実践の場）の実施報告

仙台・松島エリア

■ 瑞巌寺・松島蒲鉾本舗・仙台うみの杜水族館・2024SENDAI光のページェント

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

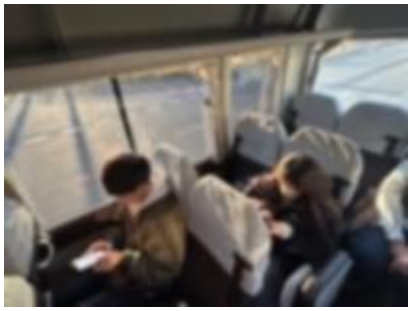
石巻・女川エリア

■ 石ノ森萬画館・石巻市震災遺構 門脇小学校・いしのまき元気いちば

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

石巻・女川エリア

■ シーパルピア女川/旧女川交番・大川小学校/大川震災伝承館



● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

気仙沼・南三陸エリア

■気仙沼市東日本大震災遺構　伝承館・気仙沼お魚市場・岩井崎塩づくり体験館

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

気仙沼・南三陸エリア

■道の駅大谷海岸・教育資料館【みやぎの明治村内】

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（５）最終ミーティング

■全てのエリアで視察を終え、参加者全員で最終ミーティングを実施。
各々の感想を中心に、視察したエリアや場所について感じたことを発表した。

＜感想の一部＞

・今までは個人的に震災のことを考えることはなかったが、今日は気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館を訪れて泣いてしまった。
・多言語化については、対応できていない所が多かったが、明治村の場合は細かく多言語化されると昔ながらの趣が壊されてしまうため、どのように対応するかを慎重に考えたほうが良いのかと思う。
・様々な場所において、多言語化については、音声ガイドを用意するのが良いのではと感じた。
・展示については多言語化されている場合が多いが、資料映像に字幕翻訳がついていないのが不便だった。
・東日本大震災について知ることは、とてもインパクトがあることだが、被災した方たちの思いを聞いて学ぶことは貴重な経験となるので、震災を伝承している施設には、ぜひ外国人旅行者にも訪れてほしい。
・語り部の方が活動する際には、スマートフォンなどの翻訳アプリや、翻訳デバイスを活用しても良いのではと思う。
・日本は田舎の雰囲気も特徴的なため、そういった場所だけでも旅行者にアピールできるのではないか。
・英語だけの表記対応なら、直ぐにでも出来ると思うが、対応していないのが不思議に思う。

招待状作成ワークショップの実施報告

（１）全体概要：宮城県「招待状作成ワークショップ」

TOHOKU MOMENT　招待状作成ワークショップ	
企画趣旨	東北３県の自然の美しさ、文化、そして震災からの復興へ向かう生活の一瞬一瞬を捉え、人々に深い印象を与えることで、国内外から東北３県に人を引き付ける全世界に向けた招待状の制作を行う
開催日程	第1回　2024年10月30日（水）16:00～ 第2回　2024年11月13日（水）16:00～ 第3回　2024年12月19日（木）16:20～
開催場所	宮城県立多賀城高等学校
実施内容	計3回のワークショップ開催し、10箇所/10ページ構成の招待状を考案する。
参加者	宮城県立多賀城高等学校　災害科学科　10名（2年生5名/1年生5名）
実施内容	• 1回目：掲載内容の検討・写真イメージ設定（ページ構成案・使用写真案・メッセージを課題として提出） • 2回目：ページ構成内容・表紙（ロゴ）設定・ページネーション構成・サブタイトル決定（リード文を課題として提出） • 3回目：ページ構成・表紙決定・最終修正内容の確認（一言コメントを課題として提出）

TOHOKU MOMENT （展示イベント）	
企画趣旨	首都圏のイベントスペースで、招待状を1ページごとにパネル化した展示イベントを開催。インバウンドを含めた、会場来場者に招待状の内容をお披露目する。魅力を感じる場所をアンケートで回答することで銘菓が当たる抽選会に参加できる集客施策を実施。
開催時期	• 2025年2月22日（土）～23日（日）
開催会場	• 東京　渋谷スクランブルスクエア 7F「L×７」（エルバイセブン）
内容	• 3県の校正ページを拡大（A2サイズ）展示する。 • 各県のパネルに投票用ナンバリングを実施し掲出、アンケート用紙に魅力を感じるパネルを回答いただく。 • アンケート用紙をスタッフに提出いただき、3県の銘菓が当たる抽選会に参加いただく。

● 招待状作成ワークショップの実施報告

（２）参加者募集方法

宮城県内の観光地のみならず、震災からの復興や、その軌跡を含めた魅力を国内外に紹介するため、防災・減災を専門的に学ぶ多賀城高等学校災害科学科に参加打診を実施。
宮城県の協力のもと、多賀城高等学校への説明訪問を実施後、参加承諾を得る。

■多賀城高等学校への打診は、**宮城県復興支援・伝承課から連絡を入れた後、本庁と共に訪問**の上で取組説明を実施。

■ワークショップの開催日程は、参加者と調整するとして参加打診を行ったが、参加承諾を得た後に顧問の先生と共に、生徒が参加しやすい日程を調整しワークショップ日程の設定を行った。

■学校の協力により、校内施設を借りてワークショップを開催することができたため、参加生徒に移動などの負担をかけることない会場設定となった。

＜最終参加者＞

多賀城高等学校　災害科学科：１０名
（2年生5名・1年生5名）

● 招待状作成ワークショップの実施報告

（３）招待状作成ワークショップの実施状況-1

【実施風景／第1回／2024年10月30日@多賀城高等学校】

【実施風景／第2回／2024年11月13日@多賀城高等学校】

● 招待状作成ワークショップの実施報告

（３）招待状作成ワークショップの実施状況-2

【実施風景／第3回／2024年12月19日@多賀城高等学校】

● 招待状　首都圏展示イベント開催概要

TOHOKU MOMENT

東北3県（岩手・宮城・福島）の招待状ワークショップで作成した各ページをパネル化。エリア毎に展示を行い、「特に魅力を感じた、行ってみたくなった」パネルを選んでもらい、インバウンドを含めた施設利用者にお披露目するイベント。

■**開催日程：**2025年2月22日（土）～23日（日）
■**開催時間：**10:30～18:30
■**開催内容：**・東北3県　招待状ページのパネル展示
・来場者向けアンケート

<image>

<image>

＜展示内容＞
・大型パネルに、県ごとのポスターパネルを掲出。
※招待状の1ページをA2サイズパネルで展示。
・それぞれにナンバリングを実施し、来場者に「特に魅力を感じた、行ってみたくなった」パネルを選ぶアンケートを実施。
・アンケート回答者は、東北3県の銘菓が当たる抽選会に参加。

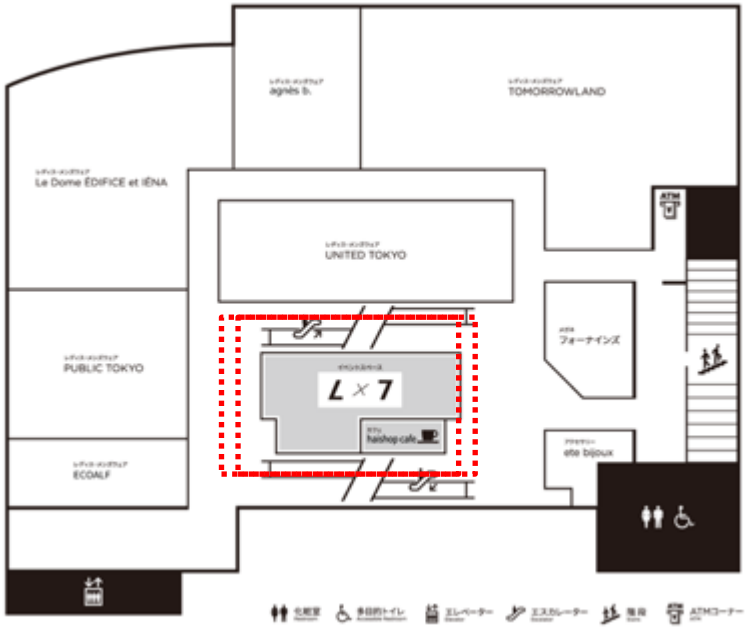
＜アンケート実施フロー＞
・来場者は、県ごとに、魅了を感じるパネル（各県１箇所）を選ぶ。
・選んだパネルをカードサイズのアンケート用紙に記載いただく。
・記入済みアンケートをスタッフに提出、ガラポン抽選会に参加いただく。

●抽選会賞品案　＜当たり＞　※最終調整中
・東北３県の銘菓（案）
宮城：白松がモナカ本舗　モナカ小型６個入り
福島：三万石　ままどおる５個（袋詰）
岩手：さいとう製菓　かもめの玉子　４個入りパック

●抽選会参加賞　＜はずれ＞
・うまい棒

● 招待状　首都圏展示イベント開催概要

実施会場　■渋谷スクランブルスクエア　7F　Ｌｘ７（エルバイセブン）
東京都渋谷区渋谷二丁目24番12号（渋谷駅直結）



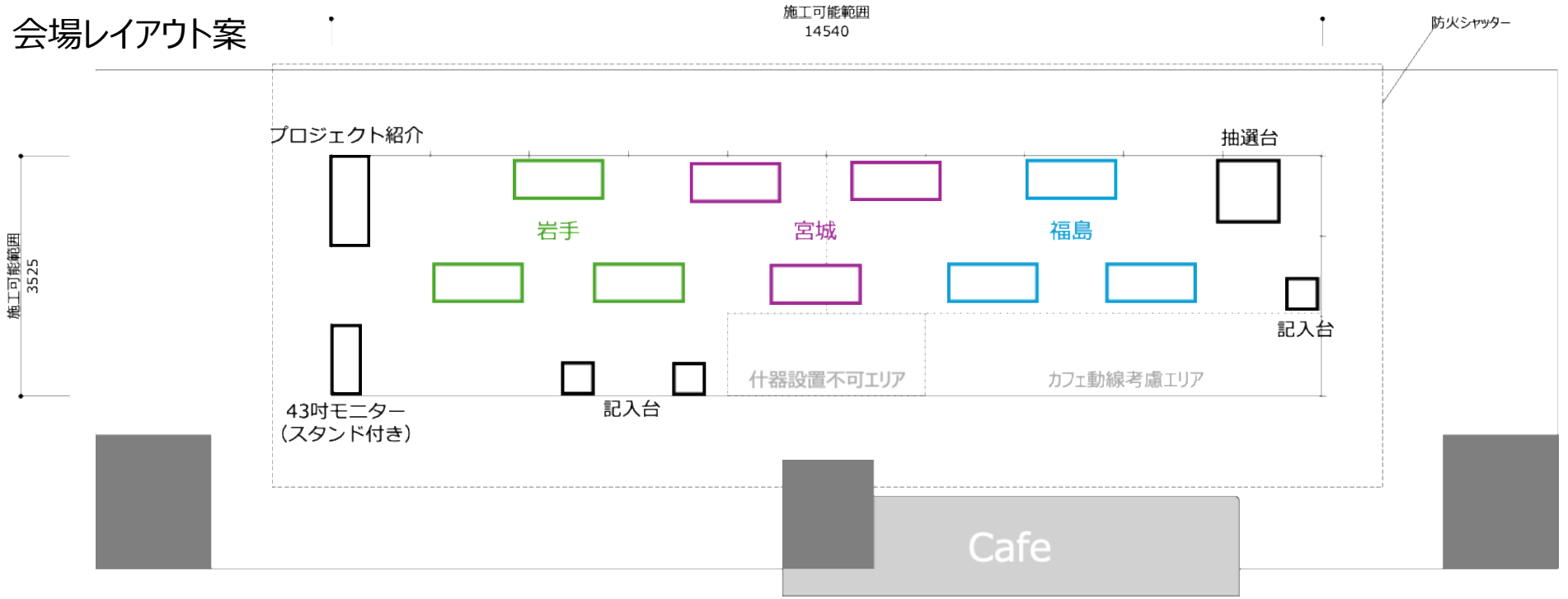
・基本使用時間：10:00~21:00
・広さ：約51㎡
・天井高：約8m
低層階と高層階を結ぶエスカレーターの乗り換えフロアに位置する、吹き抜けが象徴的なオープンスペースです。第二のメインフロアとして、幅広いモノ・コトを発信していきます。店舗通路に面しており目に留まりやすく周辺店舗からの誘引も見込まれます。これまでに多くの文化的な展示やイベントを開催しており、足を止めて見ていただく催事に最適なスペースてす。（※会場資料より引用）

＜通行者数目安＞
週末平均値：平均25,000人（土日祝／うち約2割は海外の方）

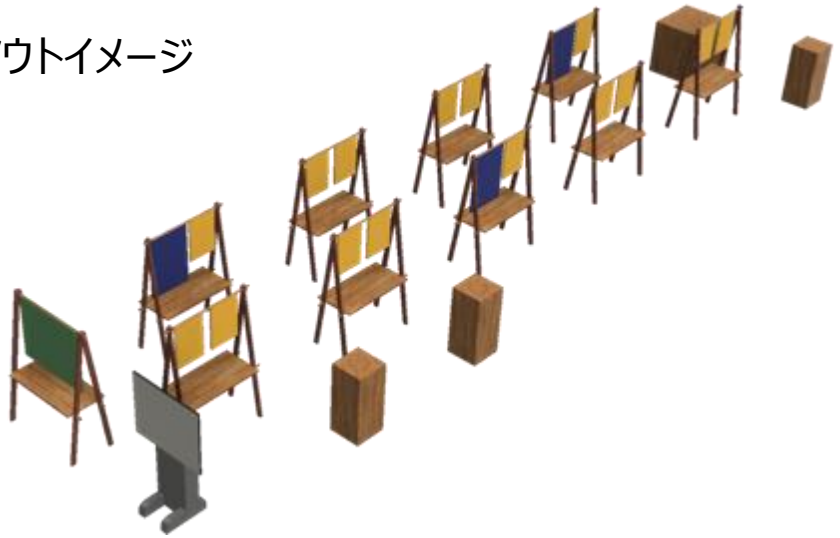
＜集客目標＞
抽選会（アンケート）は500名/2日間合計を目標に設定

招待状　首都圏展示イベント開催概要

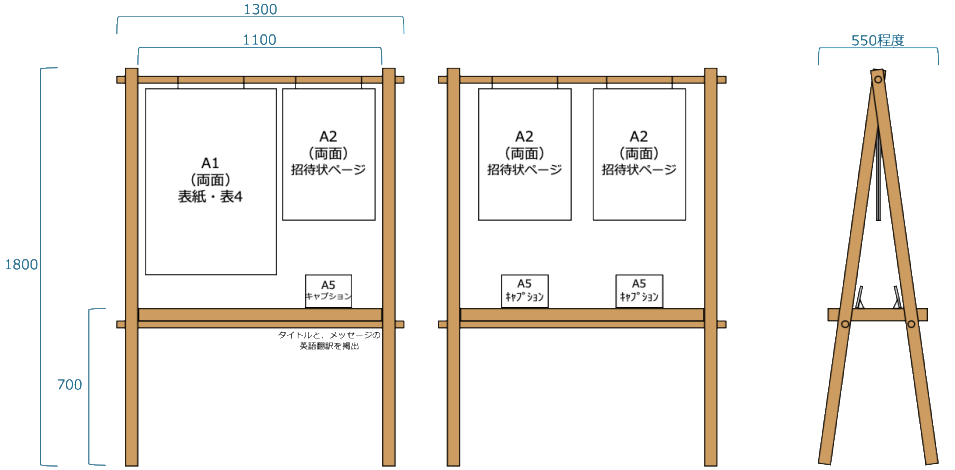
会場レイアウト案



レイアウトイメージ



展示什器イメージ



1．過年度実施状況：全体像

○ 一昨年度より2025年の大阪・関西万博を見据え、沿岸地域の震災復興した姿・魅力の発信、交流人口拡大を目的とした招待状の作成

○ **観光振興に着目した取組**、インバウンド・個人旅行客等誘客を目的に、震災から復興した姿を魅力あるスポットの魅力検証・評価内容とりまとめ、情報発信を行うワークショップを行った。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和６年度
テーマ	沿岸地域の仕事の担い手不足解消（特に東松島市の観光分野）	東日本大震災から10年目にあたって	地域の魅力の磨き上げ	持続可能な地域文化の継承と磨き上げ	インバウンド・個人客等も見越した観光振興（魅力発信）	インバウンド・個人客等を目的として交流人口拡大に向けた評価・検証
実践の場	「牡蠣で東松島を盛り上げよう！～牡蠣を観光まちづくりのシンボルに～」（東松島市） 東松島の民間企業・NPO・住民が連携して取り組む“観光×SDGsの企画”を検討し、実行計画案を作成（地域一体となって観光まちづくりを行う枠組みを構築）	「みやぎ復興官民連携フォーラム ～東日本大震災10年目の今、復興をきっかけに生まれた『連携』の姿とその将来像を考える～」 東日本大震災から今までに実施した官民連携による先駆的な取組事例に焦点を当て、総括を行うとともに、現在進行形の復興活動や今後の災害対応等に資するノウハウ・将来像を検討	「『学ぶ旅』と旅行者データ活用による観光振興 座談会」（石巻市） 「多様な事業者が関与する「観光」をテーマとした推進」を切り口に、地域の課題に挑戦している事業者の観光コンテンツの磨き上げやデータ利活用について協議。 これら協議の結果を観光事業者へ発信し意見交換をする場として開催。	「宮城県沿岸地域エクスカーションプログラムモニタリングツアー」 仙台港周辺賑わい創出コンソーシアムとともに、行政関係者や学者、研究者など知識層を主なターゲットとして想定し、宮城県の被災・復興の状況の理解を深め、防災に関する意識を高めるためのモニタリングツアーを実施。	宮城県沿岸地域「エクスカーションプログラムの具体化・商品化に向けた試行 宮城県立松島高等学校観光科との取組 「新しい東北」みやぎ復興ツーリズムフォーラム～未来につなぐ 東北のものがたり～　への参加	STAND　OUT宮城沿岸地域を中心としたエスカーションプログラム造成の前に既存観光コンテンツに対する魅力検証・評価内容のとりまとめを行い、改めて観光コンテンツの再発見・アップデートを行う。 宮城県立多賀城高等学校災害科との取組による招待状作成プログラムの実施

２．意見交換（論点１　今年度の振り返り）

論点１	今年度については、**「交流人口拡大に向けた観光振興」に着目した取組テーマ**とし、以下のような視点をもって企画を検討した。これまでの実施報告も踏まえ、**今年度取り組んだ内容についての良かった点／反省点・改善点等**について、ご意見いただきたい。

これまでの取組等から見えてきた課題

・震災後の交流人口誘客の取組が薄い。
（東北地方は若者（修学旅行）・インバウンド需要があまり伸びていない）
・震災から13年間経過しても、外国の方の震災・災害への不安が解消されていない。（心理的不安）

・震災から13年間経過する中での、特に若年層における震災の記憶の風化

・地域のプレイヤー不足
・地域プレイヤー間の連携不足

機会

・復興道路・復興支援道路の全線開通による交通の利便性の向上

・新型コロナウイルス感染症の5類移行・円安によるインバウンド需要等に伴う観光需要の復調

・メディア媒体による取り上げ数増大

課題解決・機会を活かすために考えられる視点・目的

① **「交流人口拡大に向けた観光振興」**を取組テーマとする

② **若者や外国人**を巻き込んだ企画とする

③ 取組を通じた、**地域振興に関するプレイヤー・観光資源の洗い出しを行う**

④ **地域振興に関するプレイヤー間の連携の創出**につながるような一過性ではない企画とする

① **外国の方に実際に訪れてもらう**ような企画とする

② 国内・海外から**宮城県に訪れた方にもPR**できるような**発展性・継続性のあるものとする**

２．意見交換（論点２　次年度の取組内容）

論点２	**次年度は、官民連携推進協議会実践の場では最後の年。過年度実践の場を総括する取組として、どのように進めていくべきかを議論したい。**

○ 議論のポイント

・ **実践の場企画として、**

✓ 事務局としては、本年度まで「交流人口拡大を目的とした観光振興」をテーマに、宮城県沿岸部を中心に魅力発信や事業者連携の創出につながる取組を一貫して行ってきた。来年度で今までの同じ形での取組は終了することから、総括的な取組として過去の成果を次世代に継承できる内容（沿岸部に特化し、震災から復興した姿を今まで以上に内外にPRできる内容）を行って・・いきたい。

・ 令和７年度は、過年度の総括として取り組むべきであり、復興庁としては以下に重点をおいて実施することとしたい。

◎　能登地震やその他災害へ役立つような取組やノウハウを被災地内外に伝える内容

✓ 過年度までの実践の場等から得られた成果・教訓のうち、能登地震からの復興やその他災害復興に活用できる取組事例の抽出
✓ 抽出した取組事例を、他地域に展開するための、取組のポイント等を整理した資料の作成と同資料を活用した講演会等の実施

◎　対象地域・現地側の体制

✓ 今年度の取組では、沿岸部を大きく3つのエリアに分けて、外国の方に訪れてほしい訪問先のリスト、行程表等を県内在住の学生たちが作成の上、日本に短期滞在している外国籍の方をモニターとして、自分たちがガイド役となり訪問先の魅力発信、見学個所の案内を行い、同地域のインバウンド観光に向けた魅力の評価・検証を行うモニターツアーを実施いたしました。
来年度は、震災からの復興の軌跡、教訓継承を目的に本地域の復興の際に各局面で民間団体等が果たした役割を抽出し、能登半島や今後の災害復興において参考となる官民連携の取組手法や今後の副代表団体の方々の関わり方等について整理したいと考えております。

◎　令和７年度以降の実施体制

✓ 今年度の取組では、「実践の場参加者へのアプローチ、招待状作成における学校紹介など、副代表団体の皆様にご協力いただきました。
今後も**復興庁が官民連携推進協議会に参画していくには、本協議会の各種の取組を、今後の災害復興の際に参考となる官民連携による取組の先駆事例として、全国に向け情報提供等をしていくことが重要**となってきます。
こうした実情も踏まえ、令和７年度以降の実施体制に関するご意見をいただければと思います。